

## 養殖カキのブランド化戦略の傾向と対策

瀬戸内海区水産研究所 浜口昌巳

### [背景]

全国的に魚介類の消費量は減少しており、私達のなじみの深い貝類であるアサリの標準家庭の年間購入量は2000年と現在を比較すると約6割、シジミ類では約4割まで減少しています。このお話しの主役でありますマガキの消費量も例外ではなく、アサリやシジミ類ほどではないにしても減少傾向にあります。そのため、ブランド化をはじめとする様々な販売戦略が必要となってきました。

### [研究成果の内容]

養殖カキの新品種開発や品質改良は、日本一の生産量を誇る広島県で長年取り組まれており、三倍体カキをはじめとする新品種の開発などが精力的に行われてきました。その結果、これらの成果が「かき小町」など様々な名称でブランド化されており、ブランド化の成功例の一つとして挙げられます。三倍体の長所は、通常二倍体では身入りの悪い時期でも商品として販売可能であり、お歳暮等の需要が多い時期に出荷できることです。また、広島県では三倍体以外にも、本来の広島カキの特徴を示すカキの品種開発や、マガキ以外のコケゴロモガキの養殖などの試みが行われました。

瀬戸内海は広島以外にもカキ養殖が盛んなため、それをサポートするために瀬戸内海区水産研究所では、長年、カキ類の養殖特性の把握や養殖に適した系統の探索等を行っています。さらに、2011.3.11の東北大地震以降では、東北地方で干潟漁業やカキ養殖業の再生に関する調査・研究を行っています。東北地方では、個人や地域単位でカキのブランド化を進められており、“花見かき”、“雪融け牡蠣”などの大変良いカキが生産されるようになり、主に東京等で人気があります。これらは、広島で養殖されている種と同じマガキですが、地域によっては身入りの時期が異なりますので、東北地方のカキはそのような条件を活用し、瀬戸内海の養殖カキと出荷時期を変えることによってブランド化を図っています。

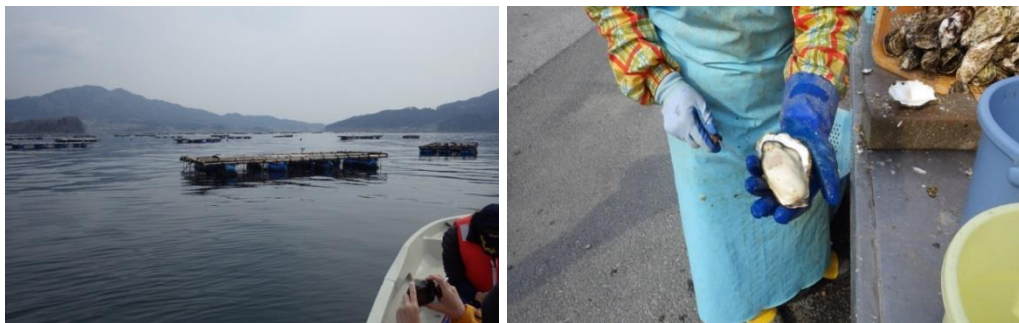


図1 岩手県広田湾の養殖施設と養殖マガキ

今回は、このような調査結果からマガキやカキ類のブランド化等の販売促進のための方法を考えてみることにします。瀬戸内海でも東北地方のように、地域性を利用してブランド化している養殖カキは多く、福岡県の豊前一粒がき、岡山県の日生のかき、兵庫県の坂越や室津のかき等があります。その他、瀬戸内海の西部の中津干潟では、干潟で養殖するカキ“干潟美人”があります。日本人は大きくて身入りが良いカキを好んできましたが、近年、小型の牡蠣にも

注目が集まっています。干潟のカキは干出時間が長いため、小型ですが味が良いため“干潟美人”はこのような特性を活かしたブランドです。このように、地域や生産する場により養殖カキの特徴を出してブランド化するという方法が一般的ですが、マガキ以外のカキ類を活用する方法があります。イワガキは、元々は地元で消費される程度の種でしたが、島根県および同県隠岐の島の漁業者の方々の努力により養殖方法が確立し、今では全国的な知名度を持つ新たなブランドとして定着しました。瀬戸内海の周防大島では天然のイワガキが漁獲されていますが、これについても今後養殖により生産量を増やすことも可能です。また、近年、オイスターバーで注目されているクマモトオイスターは、戦後、日本からアメリカに輸出された八代海のカキの末裔ですが、マガキとは種が異なるシカメガキです。この種は、有明海・八代海にのみ生息する種と考えられてきましたので、熊本県などで養殖の試みが行われています。しかし、2012年に私達の調査により、大分県中津干潟にも生息することが判りました (Hamaguchi 他 2013)。その後、私達と岡山県の高校の先生や生徒さん達の調査により、岡山県では有明海・八代海に匹敵するほど、シカメガキが高密度で生息することが明らかとなりました。これらの結果から、瀬戸内海でもシカメガキをブランド化することも可能と考えられます。その他、近年、マガキの新しい仲間の報告が相次いでおり、愛媛県ではマガキと同属のスミゾメガキ (Sekino 他、2014)、大阪湾南部の *Saccostrea* 属 (Hamaguchi 他、2014) や、瀬戸内海でも食用とされてきたイタボガキの仲間である *Ostrea* 属などの国内未記載種が発見されています (Hamaguchi 他、2015 投稿中)。今後はこれらの種についても新たな地域ブランドに出来ないか、という調査研究を進める予定です。カキ類の消費量は減少していますが、近年、かき小屋はブームになっていますので、この点を加味して消費拡大のために消費者の求めに応じたカキの品質改良や新品種等の開発等の販売戦略が必要と考えられます。



図2 左から中津干潟のシカメガキ、田辺湾のスミゾメガキ、*Ostrea* 属の国内未記載種

[用語の解説] 国内未記載種：海外では知られているが国内で報告されたことのない種

[参考文献]

- 1) Hamaguchi et al: New records of kumamoto oyster *Crassostrea sikamea* in Seto Inland Sea, Japan. *Marine Biodiversity Records (On Line Journal)*, 6: DOI:DOI:10.1017/S1755267212001297, 2013.
- 2) Sekino et al: The first record of a cupped oyster species *Crassostrea dianbaiensis* in the waters of Japan. *Fisheries Science*. DOI:10.1007/s12562-014-0838-3. 2014.
- 3) Hamaguchi et al: Occurrences of the indo-west pacific rock oyster *Saccostrea cucullata* in mainland Japan. *Marine Biodiversity Records*, DOI 10.1017/S1755267214000864, 2014.